

第3回 郡上市住民自治推進懇話会 要録

【日時】 平成23年12月6日(火) 午後7:00～9:30

【会場】 八幡防災センター 防災研修室

【要録】

1. 開会 (企画課長) 午後7時00分

2. あいさつ

(座長)

- ・当住民自治懇話会は、「郡上市に適した住民自治のあり方に関する事」「住民自治基本条例に関する事」などを目的とし、懇話会で、協議・検討した内容を市長に提言する役割がある。前回は、ワークショップを通じて地域で実践している住民自治、住民活動や自治会活動・地域活動などの意見を出していただき共通認識をしたところである。今日は、ワークショップで出された意見もとに皆さんと意見交換を進めたい。

(企画課長)

- ・過日、開催した市民協働フェスティバルは、「市民協働」で取り組む安心・安全なまちづくりテーマに開催した。講演の中で、いざという時の災害の対応について、日頃からの備えや防災訓練などが大事であり、自治会などのコミュニティがしっかりしていたところほど復興が早かったと説明をうけた。こうした活動が市民自治を高めていくことに繋がることと思う。

3. グループ意見交換 (資料説明：事務局)

- ・1月7日の第2回住民自治推進懇話会では、今井先生より住民自治に関する事、自治会等アンケート調査とりまとめについて島田職員(総務部総務課)より説明を受けた。
- ・ワークショップは、3班に分かれ「身近な住民自治を考えよう—あなたも実践している住民自治—」をテーマにワークショップを開催し、①自らや地域で実践している住民自治、住民活動や自治会活動、地域活動で課題となっていること、②模造紙へ同類の意見ごとに区分し、標題間の関連や連携について図示すること、③問題、課題に対して、解決可能なことなのか、解決できないことの整理をし、解決できない場合は、行政の協力・事業者の協力など、どうしたら解決できるのか対応策を検討したい。
- ・本日配布している資料は、前回ワークショップで出された意見について課題を整理したものである。この項目について、①自分、隣近所で解決できること、②自治会、公民館等の取り組みにより解決できること、③事業所、NPO法人等の連携により解決できること、④行政、議会が実施すること・支援すること等の役割について意見交換をお願いしたい。

(1) グループ意見交換、発表

○第1班グループ発表内容

<テーマ>地域防災力を高める

<課題>

- ・防災訓練が具体的(実際)でない。
- ・住民の防災に対する意識が低い。
- ・非難場所の周知が徹底していない。
- ・火災報知器や消火器の備えがない。
- ・消防団に入らない。
- ・消防団が高齢化している。
- ・消防団の役が若い。
- ・昼間に消防団員がいない。
- ・地域内、自治会内に高齢者しかいない。
- ・行事に参加する人が少ない。
- ・高齢者が逃げられない。
- ・地域の危険箇所を知らない。
- ・防災グッズの備えがない。(場所を知らない)

<解 決>

- ①自分、隣近所で解決できること
 - ・自宅防災の話をして子どもにも意識をさせる。
 - ・訓練に参加する意識を持つ。
 - ・自分の命は自分で守るという意識を持つ。
- ②自治会や公民館等の取組により解決できること
 - ・防災をテーマにした話し合いの場を持つ（今は防災に対して関心が高い）
 - ・昔、郡上で起きた地震の話をする。
 - ・火災報知器や消火器の斡旋。
 - ・夜回りを行なう。
 - ・たきだしの訓練をする。
 - ・巡回時に子どもにマイクを持たせ防災（火災）の注意を促す。
※集会に人を集めるには何かを体験させるのがよいと思う。
- ③事業所NPOにより解決できること。
 - ・消防団員をかかえる事業所はもっと積極的に消防団活動に協力する（災害時の出動や、夜間、休日の訓練にも理解をしてもらう）
- ④行政が実施すること
 - ・住民に非難場所や危険箇所を周知徹底する。
 - ・避難場所は災害の種類（雨、地震）によって分ける必要がある。
 - ・もっと現実的な訓練を行なう。
 - ・消防の大会を減らす。その代わりに、消防署から来てもらい実質的な指導を毎月とまではいわないが実施する。
 - ・消防団の区域割りを広くする。
 - ・食糧品の備蓄を店と提携しておく。

○第2班グループ発表内容

<テーマ>住みやすい地域を自分たちで創っていく

住みやすい地域をテーマとして、前回のワークショップでの意見である「子どもの登下校を見守ることにより、自らもまめやかな運動に参加する」について意見交換を行った。

<課題・解決>

- ・まめやかな運動を実施しているが、参加者が減少しつつある。
- ・子どもの見守りとともに、まめやかな運動を推進し健康づくりに寄与できることの周知と、地域全体で取り組める方法を考える必要がある。
- ・前回の意見の中で、子どもの登下校時に音楽を流すという方法はいい事と思う。
- ・音楽が流れると同時に、アナウンスでまめやかな運動や子どものみ守りに関する周知を行う。
- ・音楽に体操の振付をし、市民全体でその時間には外へ出て体操を行うようにしたらいい。（歩くことが苦手な人は、体操。歩ける人は登下校の子どもたちが通る道を歩き、見守りを兼ねる等）
- ・推進するには1団体だけでは寂しすぎる、地域内の各種団体や、自治会、企業などがこぞって参加することが望ましい。
- ・見守り活動をするには、参加者全員が同じ気持ちになることが必要と思う。
- ・白鳥や美並では、子どもの見守りボランティアなどが、オレンジ色のベストを身につけ、登下校時に子どもとともに行動している。
- ・市内全域でオレンジ色のベストを付けて見守り活動ができるといい
- ・市内全域で統一したことは無理であるとなれば、市では見守り活動とまめやかな運動を実施することとし、方法などについては、地域事情もあることから、地域単位で実施方法をきめられると良いかもしれない。
- ・まめやかな運動とともに、地域のお年寄りや、独居老人の確認も行えると良い
- ・事業を推進する上では、コーディネートが必要 → 市役所（地域事務所）

<テーマ>住みやすい地域を自分たちで創っていく

<課 題>

- ①子どもの登下校の見守り
- ②まめやかな運動の推進（健康づくり、高齢者の見守り）

<解決>

- ①自分、隣近所で解決できること
 - ・誘い合い、声かけなど
 - ・率先して参加すること
- ②自治会、公民館等の取り組みにより解決できること
 - ・自治会員、市民への呼びかけ
 - ・自治会、公民館事業への取り込み
 - ・関連団体への周知
- ③事業所、NPO法人等の連携により解決できること
 - ・子どもの登下校時に外へ出るような取り組み。
 - ・子どもの行動に目を向けるなど
- ④行政画実施すること
 - ・音楽を広報無線等を活用して流すこと。
 - ・市民や自治会、各種団体への周知と参加呼びかけ。
 - ・オレンジベストを作ることへの財政支援
 - ・この事業を実施するうえでのコーディネーターの役割
(実施主体の団体ができるまでの期間)

○第3班グループ発表内容

<テーマ>地域行事の活性化

<課題>

- ・世代構成により差がでる
- ・世代間の継承
- ・行事のマンネリ化
- ・接触する機会の減少（農業をする人が減少した）
- ・予算の減少
- ・集まることの意味が薄れてきた

<解決>

- ・世代に応じた行事の実施
- ・親が地域行事に子供を参加させる
- ・中高校生を行事に巻き込む（役を任せる）
- ・行事の実施（潮干狩り、もち花づくり）
- ・専門家の活用
- ・活動発表の場づくり
- ・情報の伝達（CATV）

(2) 講評（今井アドバイザー）

- ・自治会を補完する組織として、島根県雲南市（中山間地域）では、合併後の自治会が弱くなったことから、自治会の中に体育部、文化部、保健部などを設置し、それぞれにリーダーを配置することにより、自治会長の役割を分担する地域自治組織としている。また別の事例として、地域自治組織を自治会、公民館、PTA、女性の会、シニアの会で構成し、防災、各種の行事ごとの目的にした組織編成としている。いずれも自治会を補完する組織の事例である。

(座長)

- ・今日は郡上市の住民自治について、自治会のテーマ決めて、自分たちできること、自治会や公民館の取り組み解決できること、事業所、NPOとの連携により解決できること、行政、議会の支援により解決できることを話し合っていた。以前、高鷲地域の自治会長から自治会長は各世帯の代表であることから地域内の住民全体の意見ではないと言われたことがあり、確かになるほど思ったことがある。地域全体の意見を聞くには、総会など皆さんから広く聞くことも必要であると感じている。

4・その他

5. 閉会（副座長） 午後9時30分